新板

やまとぶみ

像小学巻之六

善行の篇第六

善人のつとめとしてまづ父母に孝行をつくすべし

父母の恩は天地の如くにして高くも厚くも測り難し

父母の恩は天地も無尽申ス

父母に孝行をつくすべし

父母のおもへ何事せら

所貝村
仲丸喜市

ゐるくらゐ極き極まれる時言はしてもぞ金と銀と珠とぞ
きぞ多くとも尊き貴たくしくこそて
よはくさせらるるぐさ時言はしてもぞ人母
長者のおそれ富貴とあるぐさ
酒色のうしろ〳〵たらうさ
ゐるる書曲ハてくびも年よきうしぐぞ心の立礼
のちハてくびも国よれしめぐぞ
陪よつけて学問させしたぐ
しくおぐそそるゐるえさ
あぐきちゐるれあれハそのまくびつけおきて

一日一夜までもつおよ物りひ法りぐぞそこうて学ぶたら
おそれとのくさぐぞあやまちくゆるくきこあれ
ぐ接種ゐとうて国ともうけれ久るも呂尋ハ国よ
てハ父母毎川きびくぐぐくぐぐ結先生ハ化
導かくのくくそげくれハその酒色遠へ学
ぐれうまれとあるくうゐ
呂尋ハ夫人ハ沈量くのこもあもぐいまぐこう
うぐうう国父母ともかぐ羅あくくぐ結ちくのきうゐ
くいくくも。子生いくくうれすまでもぐと書てお
だらくくくくめぐ合あ通と用ひくくこのきても

ばけ物ハ、てうびうこ、ぢ、ぶ、ぶ
ぶ方へ、まいりてせんぬ。其ほ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ
ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ
ハ、母ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ
べ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ
と、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ
つけ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ、ぶ

唐の陽城学校の師となりおのれ学ぶとあり
へこちびうれくるぐおろはは門下生学ぶともとちび
あうろうげきあされしハ人の学問をろハ志ちよ思とあ
るひ親よ者とつくれ屋とまろべさくあるぬ
ハいうくんくるぞくあるりくれハたときくくしげ
よりくおりひそれあろロよ師の陽城へいくぬとや故
ろへ沖り親とやるふとれ井人井ありくうぬそれ
おりへときくてもくぬんるくこ幸まで親とひま
ハぐるとれあれハ師の方ろうあいおされくるくあん
胡翼之く模別湖別二ケ国の学校の師くあり学んに

おりへきろげれくしに式国とおさて新るの仕法
といまりやうれハくるぐまびまう勇りくれでくく
よまそれせくれ或ハ裏の炎天くても蒸たまく
して学ちよ勉ち師弟の礼儀とおぐこそうよせ
られ蕃人の時も義理ハ時あるうおいくうてハ。
ふとつげくうぬして移ん時よまるされくうがれこ
くるう徳義ある沖へよそのくら新の学校へ行う
まくよ天下くう沖穏ちくう学ぶおびたまくして。
おりおるうくうくまぬそれおりへこちびさだで
きゆよおまくぐう種の学ぶもものづくう師の徳

よ化して形体法身ぎさらてぞのつきあへ
ぐりくりゆへいつまの西へうちちりそろ井みりてもおふ
程のくその物いひ仏法とかんてハさぐらて胡先生入弟
子あるべしとぞとしてもちりくりあん
門通先生弱冠へ参詣しかたくもひろ
凡信ことたぐちくしぬくんとうなかもそぞうはね
ハ徳業ちかりくの師ともるぐきくとあくへ
あつりはひて弱冠ぬまの名と儀編せしかはひ編物
程のあとくしぬぷ井出へとんそくとうちびき。
凡まくりくりくもぞへうくりくはあんまもいくろ

ぬきくりくりと出くしめてぞの学あるくりくり通
たくりきのあれハ程の学校の師ともりぞハ西く
の学校へとあて学ちくりくちびりせはのべくしくぞ
伊川先生紫波殿玩出よ伊川先生ひくりくは養母せく
出くくハ学校ハ礼儀とまるぬ所ぬるくぬ毎月学ちぬ
えるトとたくべくうくりくひのんを
おくしゆりぬぞくりはこくりくはくりくあくあ
この学とあくりくとくりくまハ裸役くくてぼくく
りくぞるトとたくべあくそハちあびぬりあきく
ものあくびひそくふ師の方へよびつけておくへくら

びくべしとて
○藍田の呂氏鄉約を刻して
せしに
らずあるひおやまちときていかるかしあるく
めその家とくあそのあるくあきあおろ兄ふ
つよきうあぜもとめぐ下部のとれどそそき
くまりつひどくけ後たうきんとやまひ法
親族よりてくぐさぐちとをくまりう
廉直ぐまちうあ悪とるくのうまくすひ
人の善をちくのくものとせいよいん仲伯

しきとるべしぐとうきまりとおくう
害とのぐさうあ家業とくしべしゆちぐべ
らびけ膳員ちくべくうくうくう喧嘩口論ちくべくうくうひちけ
ぐ活すべくうく礼法よたづうあ孫あくべくうく年大
け酒あうくあるくりうくうむべくうくひくのくうあ
しいのべくうくひどくつよさくたのくそくのくまのぐべ
くうくびおやまちくきくうてあくくあぐくうくのあくべ
かくびいさくあきくていくくくくくるくべか
らびくのくあくきくりうくくくるくべか
くうくずくくくくあくくうくたづくのあくべう

らびあやしきものといひてくの足ときどりもそべう
らびくのるを雞とりひくべうらびありてひきハ中
ゝもとりとてげりまてそうのあるべうら
くとそうるハきうくべうらびくのあるきるとを
おさんとそべうらびくのあしあかしるといひ
あるべうらびあり鶏よりけうくのあとりゆくる
くてくのあとうくよたのまれてあさしく蕎ゆ
あるべうらびあるきあるよまりうくすあるか
きあくひきくあるそひあるくべうらびたりれるとい
ひくあるるべうらびあるるとうるあれあ

そびとべうらびるるる鶏べうらびきるるいるべう
らずうあるるるるるひのあるるるるるるるべう
次いるべうるるるるるるるるるるるるるべう
らびあるるるるるるるるるるるるるるるるべう
うるハるるるるるるるるるるるるるるるるべう
びるるるるるるるるるるるるるるるるるべう
るるるるるるるるるるるるるるるるるるべう
るるるるるるるるるるるるるるるるるるべう
るるるるるるるるるるるるるるるるるるべう
るるるるるるるるるるるるるるるるるるべう

じぶんよりひろうけてきもいろべしゝ。ゆゑあるに
ゆゑなくして親よりそるはだしくるの親もるべし。
親の付きうもるべくきてくるべしひとうた
つるやうにとべし。ゆゑなくといひ云けん雜談にる
人ありゝゆゑもの先云後へうてくおやまうる
きもしひとこうろべしそれまでもこうた
こびゝ。閑わるとまあひくうはうあひ合カ
てどうろべし。衍紙たゝきてもうまれあひ
奴職にて。夕方おうろうあるこれもまこ
うろあひ合カしてこくむべしこそ

問道先生はいつれの大学の理をきうあ性をつく
ときゝ小学の功夫をせざれば学問ばかりぞ
るよ世の学ぶちうきとてをきうまうる
びきこよわてたうきとうかふゆつるよあとう
ゐうこれしこそ

右賓立教

漢の高祖ひろうしてしゅうの母よりあるひとりの母
へあり久しくそのわかれ天下定まりて乱妨雑務し
ゆくゆくと母をとりよせあつて検断なりこれぞ
げくくまれこうやのことひろひ母よりたてまつりて
いのちをつるきくりぞ雑務人よりきあひ
とりあるとんとまくりの母は革たらぐとあぐ
し、親母のいれちをたてけ移てこびこうまけの
こそのの紙のいろあるれまそだけきものこう
とも感親きとくごくあり久へ雑務人もいとと
か出まよあるきんへぞくれまありひとれとおろすに。

あそびすして たちとまりて
あらくさの道をたどりまで
下部しいつかまてあり
くらんハかようにさつ
うまありぞあり
しるひくらぐわ
の春巻のあてハ
して今箱のやしきひの
この箱よりいろまで
もらくうせまりせ

ぎりくらしあん

漢の薛包ハ幾母の繼
くらぶりしりあ
びもしてるれ
きしして杖とり
ゆへせんくるて
ありくらぶそれ
いり掃除をけ
まて弟の断
のかりまて
ちくよの弟へ

ゆきて
ぶくよあり
ちわひて

とたづの焼よりあらびてもの又尼薬より出て毎月毎夜
一年あまりもかくのごとくなれば父母もまことに感動しこう
ずるやうにやうやうにてあるよりさてそれ
ちなんとうあくなれてゆかれぬ薛包を勝手に出て
ものもまかりあるべしとまことにまことにこうぶつ
ひとりとなりて家職をかけうぶつつよ
ちくとなりしも薛包はうちにてとしに
あるとれどとうていひとりはなれ八年久しくしかも
ようくてどれしあるべくもあるべきつんあきも
ものとてやうやうにて又苦言をきくべきあるとも

引ぐかしてらかくもとくもとくもと

てのらよ又合力とうろくぞうしうろくあう
とうく
○善兵衛祥ハいとけなくして母ようとうに結髪ゆ
てぞくもとうもれうろ少へづのよ半ばやの掃除
とうもせげうりきあ拙くぐうあうろせうれそ
祥をうしらしいんうくそれうきうつあけ
つぞりうう考んふうう名ハ二親の内やうぐう
ひ沿へ貧乏あびとうびよ看病し業作ともれ
ううぞわうう〻そたそもううう或時母
う屋敷へ金色入うとう祥うれと

きいりあもしてうらのへまいりせうくおりひ門のや
うりへゆきううぐ杖しうう冬のうのうれ門ふうう
きうりうとうぐでせううきうし祥うりうきうと
りひ銀とうきううりうあうりて水のようぐうり
とうりて貧ぐのうりうんうおりひううよぞうきう水
おのづううけてそのあひうふうの雑とうう
おううぐれうきうりおりひづうきうれて海うう母
うたてまいううう又あう時母をうれやうあと祥
うれうれれぞ祥これもう又いうあもして貧乏うう
うあとおりひへううあう内よ祥うくうぞうあまう乗

ゆきて　ぞ　祥の　家の　幕れ　内へ　いろ　れば　やうて　うい　て
たて　ゆ　ん　ん　ぞ　れ　と　こ　ろ　く　ふ　魚　機　の　ち　の　ひ　と　色
ミ　か　こ　ん　考　り　ん　ち　ん　さ　し　。　天　花　と　感　動　と　ろ　ゆ　ふ
ろ　べ　ー　と　ぞ　い　ひ　ち　ん　ち　ろ　ち　ぞ　ぞ　の　家　よ　え　ん　し　ち　ち
め　ち　れ　ち　ん　ち　ん　ち　ん　ち　ん　ち　ん　ち　ん　ち　ん　ち　ん　ち　ん　ち　ん
て　ぞ　祥　よ　家　ど　ち　せ　ん　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
桃　ち　ろ　べ　ち　ち　て　ぞ　よ　い　ぞ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち
ち　ぞ

王裒父子義ハ魏の時軍司馬昭ようへいしの来国の
いくさに司る昭ちまけ敗軍して結髪ましう
ひぱくしび物とうるつくるそのの答准ゆへるうべし
しくしれくるよ結髪勢ようくれるやくものかう
よまる後一人とくくに弟てしけるハぱくいくさの勝負ハ元ぢの
つくくしくるかるれハ結軍勢の答ものうべうしびくそ
ぐくうかるくいひくくゆへ司る昭おりくさよいくう。
やうてまる後とりおしぐくびくくれくうまる裒
父の昭命ようて死せくれしるとるげさそれくう
原道しうくはくくぐそ父の墓のくくうはくう
くくて約夕墓よりくくぐひくはくきれ後して
そくるくう物のまはいくれくれくるくしまれくれ
ハかくくくくのまくくり物よまくくうさそのの本もつるよ
くれくくくも侍の蓼義ハ父の第ハ父母のくくき恵くくのべ
くくくれくれハ王裒父のくくやくくせ結ひてくくくく春れ結
くくくべくくくくるくくくくるくくくくおりひわてぱ第くくじは
ぱくくくく

うんくるぶ郡内の人数お迎ひよりてぞこしも
おもくつくづくぞの人々つ父と害せし司馬氏天
下とるをひとりぞの分よ新とくて晋の世とよ
ひくれぬまを裏一生のうぞ西よりひて産せびこれ晋
よ陸たくぐうりとぞ三あせうゆくうりこうや
費氏王延ハ新よつくてつよぞうこうぐき新こ
とのぞ春言しくうぐ愛ハ新のまこしりうく
とあのさぞハうぐ愛ハ新のまこしりうく
なりくうぞりこうもぐこれハ父のくびさうも。
ぞうくうぞちくうぞちくうぞ

も拾おくれとも親ハ父時の金をとりくぞのこ
やしるひくうとぞ
○京の崔懿が妻ハ夫人ハ老こしようくて書りせ
ちくこめこ乞歯こしぐをりけこれハ食ひ
つまそぐちくと老こしあよぞりせこりこれ
しりうりかうぐゆつよ老こしとの報年のあつぐりつ
ぶくこい法ハぐれこもぞ
老こしとあこくこくよおこ
しおのし一門のくこしぐぞうこう老こう中

まそ志ゝくめ[illegible]されしかぞれ年久くらゐ高
夫人の寄恩とうけて[illegible]
りくを高夫人まあり湯ありてぞれ[illegible]
こゝく考りよせぞ[illegible]ぞ[illegible]
とゝぞ[illegible]され久
面舞の庚熊憂[illegible]
るぐゆさうきそ[illegible]
ひるさうぎ[illegible]
[illegible]ありひいそぎ[illegible]
くゞの庚易さんく[illegible]

そゝありひさ[illegible]病しくゝ[illegible]
久ゝ[illegible]の高の苦恩と[illegible]
ゝゝべし味ひ苦れ[illegible]
ひよ鱈憂をかり[illegible]
その味ひあり[illegible]
いゝゝゝ[illegible]
ぐゝよ[illegible]脂をぐさいのゝ[illegible]
んのゝゝ[illegible]天よ恩
念しくゝ[illegible]
海農の令。行年母[illegible]

くろうぶけきうあり　むすめくしてだをくるあ
くなりぬれば　こを別世机儀のするんぶ　葬れくい
とるひするるんしてるひるとるげさて冬
もとるれくくろ衣裳をきずるも嫁しさるおの
らびぬ一日よりづる米二三合と鶏と食して　酒菜
壇噌さくもろうて母ひどで年月うるるるの
やぶれ屋ひ換して　ぬくくるすくるさうる
とおいの伯母　美ぬよあのりひ　修理しくせんと
ひくれぬ　ぬくくるるんぬくくるるんぬ
ぬくくるるんぬくくるるんぬ

ろれ一羽へうりぬくくるる家と修理せんるのおも
ひもくくるるくくるるくくるる

ぱうきさうかしらしすうぎうりかしがくてみすぎ辛う
ぱうくとるとろんとものぞくとろんいやきのるうろんで。
わうかはありひきうてい官位ともて母よりわりぢんニ
くびゆくうもうしちくうひて故くくお殿へのうぐり義
くくくくと同列とらいへわくて義もどうし治くうれ巳
ぢうひのくくうう芝うぎうきうくうくぢ氏義よそぐ
ち茅とらくくくきくきくきくきくきうぐでくきごといのく
きくくよどうぐ義昌ハうくわきゆうきうすくハ義よ
もちうきうじとりのくくきて御ぐろきちうぐ
きくくとうぐちくくく

○伊八先生喪とあらはれて佛をよしとあつらへせはるゝ葬礼喪の礼祭の礼よりゝ
まで皆仏法のごとくなるべし

○漢代霍光世除年ごろ樹中へ初生ゝ毎月
つのゝ生ずるごとく麻麦のごとくおのづからして蕎
麦ごとくなれば官人ゝ
うよとうーと言葉でこゝろ
のおこすもちゐざるゝ也これ仏法
あるべし

○漢の汲黯ハ学ハめてもとゝ

きうへ伝よりもうつて百つ
あり武帝傷ましくあつめて
めさんとおりくれしは四海陸下内ん
くして仏は仁義のたとあ
てうかるひ待うべきさ人慈の
人のたときさ待ひてもたとう
きよりひあくれは武帝あ
くれはいうあ羅まうあこう
しよ武帝もさとれう
待つ地ゆくしいのくいの

やきよくくしいのは四海こう
こびたつひおきことも
よおちいきしうは恩の
とて一命とうらどして
ふはは伝ゆしこそ
恵相こ逢仏ゆじいた
じ御青よあのたひ寂せ
待つのもありくれしも四海こよあひ待つよあわて
は衣冠たくしずして
しは衣して石塔よ付四海ゆきこうこ待へ

ハぺんをもて肉へうくんしてハ入れるひとうそで
魏の羽筆墨をもて外へ仗よゆきを布ゐ迄ようかい
ようけうをうぶをもてあるくしてあるくれ
あるくしてくして羽筆墨をもてくしてゐるえしい
あるものを後合ーくんハぎるえうひうハだであり
のきんにはしてたるくんしぶうくんぶハあるひ
良るんハ毅先あるくすもひうねぶーぷくあるくが
いろうくんこてびたるくあくしくたるえんぱうう
へうどどくどくけうぷ羅墨をもて之孫質くうしあよ
おくれくんいくんハ又ありけまうよりくんぶうそう
ゆうくんハ行うぶさをもてじあるくうくんまたう
ヤーけうくよ羅墨をもはの是恩をもあるひぎるえくう
らうくてみうくれをあうくあるくうくんハ世相ゐわるよ
逆難おうてぶあうくんひとうくひはうひうくうそで
あるのぶくさるえ世相の命をうけて犬るよ書ぐあり
へうくけはうりしぶ崔法うくよ地ーあんえ代乃世
のまうをきの書をあるくうそぷーくうくのとものれ
きくふうきあるくうせうくんを羅ようあんあるくうー
あくれぜんさくさはうよぷうるえをたうけうく
あるぶーうくぷるれをあへおはうひぎるえんハ法をきけ

まことに筆もおよばず。雀海のつくくるの手紙を
拝するきしものの形ひろげれば、みくしもきくのあらんと
おぼしめしかえんとの弱法師のごとくハ
太子伝にしるしよりうり雀海ハ無だくに平とせ
しめられてすうるやうなやうなる弟なれハ
その拝雀海ようおのきとも弟なれハ
よ親の毒よりおぼしめしだくいまを帝位よりそきも
きうひてかるきすとしたるもこそあれ
ふハぐりよしようしびしたるしよこてびみ
りぐ太子の国のくくしだしひしよこてびみ
もしたるぐ太子伝にハ久しく云とも
さぐけきりだしぐらるあくるあくして
ハのたのありしやうやうにしたるやうに
みぐ感ありて記よのぞんて国とうるに
伝うりしてえと
たしさ物とおくすくこころえきるあるべして
その花とゆうしく養ふ物したるうくるん
雀玄暉ゥ母玄暉といまし
玄暉官ようくて笑えるうしきくゆうハあり
うんくきくゆうハあるもこうくて親の

うらうら猿うのくおうるくどてのゑたなどうらぶ年よ
てぶ猿うのくいうるてたくいへてどれよとうらゝ云
るくとせんさくせぐろハひくうるせ猿の内とあ海
しおさておうるるうらバ奇特ぐるんうも。もし
遍るのうるのてとううら猿うのくゑ親うあうるあ
バおとくうようるるうどやとそゝンうう

長禮門院のつくらせ給へる宮ゝ
うつくしうしたてまつらせ給ふ
いとうしろめたくおぼしめ
内よりふ家ゝ長禮門院つ
ねやりうあらはしてい
後ゝらんゆゝきゝすれハ
ゝゝ御のやうなれハ
すしふ家ゝ長禮門院
ゝゝれゝ世の中の
ゝゝ

あゝゝとゝんゝせゝ
やゝれゝ

○長禮門院の御所に舞ゝ
ゝしすゝ
ゝゝ
あゝゝゝ
ゝゝ

○漢の陳春婦ゝ十六
ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

紙しをつべしぬしよりてぜんざとゝ
けはんやゝいへ陳者婦人ゆとくおぢ話て
ゝけばいとゝしてくろよけゝくしてとゝ死して
ゆくゝ漆者母紡糸とたゞへどもゝくゝとゝはゝ
て者ゆおくゝくゝくゝひあきゆゝくゝつひされ
ゝくゝくゝうゝてやゝるひゝゝかゝくてこゝせゝ
ゝゝくゝれゝ者母のおやゝゝゝゝきゝ分のおもゝくてや
ゝゝくゝくゝく

神こゝろぞ人参詣せしれくまぞ天子感
感こゝろあさうしびし　ぱ襲ゐ　考校
よ黄金四千行と給ひ　その面の法師
除　給ひくゝ　その
漢の勉宮ハまづ　ゝかいこゝ
新宮あ　れハその所　と感じて
ひとゝめあり　ぞよめいり　別
ひとゝ　ゝ　ゝ　衣
給ふ　まで　ぱと　平
宮　ぱ　ぱ　ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
麓　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
給ふ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
あ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

あくとくしゅうとうしきくろうこそで
當文叔が書。令女ハ夏侯文寧がひとりせ文叔こそや
く死ーしてもるくぷりふーてやあるありさ
まぢぷぎめてもぶ親又こうかくこうぐまうんと
おくらうべーぷまぎそのぼさるきこ用こそのた
ときうべーしおりひ繁ぐきうてぞおりうろ。
面おりてけんのぐくぷ父母こうくこうぐまう
りんしぎさうよもうあれハ令女せんうこうし
てぷそうふあのそくときうてべよゆこぐうまる
しぷそのうら梁の寧用その字ひいふあひて義
とおもんもうんさうと感じていふあひて義
うくまりくおもりれぷとしてていひこませられハ
父母うれしくおりひ又きさうよりうりせあれ
し令女りうとう同ーしうてうよりてるすぷひ
そうよ移やへりぷもるときうてふもなとふり
ふーあうぷその母移やくゆきそぐもぎう
ようくへぎうれハふもとなひきうんぷか
別血りよたぐくうーしぐ
考の郭義宗が書序氏ハ学問のたよ生てぎう
しまうーしあようくて考りおくうんぷうう和その

家へ盗人数十人うぢれいり名れハ家内の人々ことく
くるしみげさうてぞしとの給つるまゝ二人と
のこし悪さうまつるよ戸氏一人ぬけ出かくして
うるされ中とうとけいりまゝあのうくるる
とゝ〻名れハ盗人どもんづよきさ女うるとてがき
けるくうちたるけどもそこしもおそんとけ
ちゝあくしてさうくるのすゝ有て盗人ども
さんりてほゝくゝ家へ久いるのう少人すゝまひくり
おそれ給りぞしてよげ給ぶろぞしゝハ戸
氏こうへ名れ名ハ人の名ハ高ハこうるの不
ハ仁義の名ありゆゝもだくしひさるりの罪よりあるの
災難市来くうしもおくもひさくくしゝ一きろる
きたまりてうぶきくくうと難まわりせていぞ
うのれさう仕るべうさゝや五一きくくあくくさ
りひよあひ給りぞいりぞれいきのくうちくん
やくぞきれうく

唐の時奉天八寶氏ふくんりれびしもあり びしもて
めいぶももちぐくうくらあ西ようもぐれらくれたぐし
きくくくありくくぐぽくはハ十九嵯ハ十七のくく天
トみぐれ私坊人その雲へくぐれくくれいつまも
ふとさくそくげゆきくそびしもあ人くいくか
のりくの中よかくれ香をくくくくれ川市ふくき名人
りくくくつまゆきくぐれまくぐゆくもくべ
くくくくまくあくくハだく今ひたよ
屋くつきくくくくくしくくくくぐくくくくのくひけ
ふいぷのちくくくくハくくくくく

てゝぐつまうとうけんハおりもこゝるんハぷれこ
たぐそのゆもちまうとうけんとそやうそふうき音へ
分とるげらせくんハ妹もゝ又おりつきぎ分とるげ
らせくうとそぐぷくの京都の男ぎ又婦きてけけ
ぶけてがくう貞女とあくはくうけたくんハぷいるき
うのるりとそぐのの移ぎ妻和よ参詣せくんく
ハ天子叡感きくくそぐのつ間とあくりぷぐ
く家の伝授と免除くぶひくくそぐ

○陰の繆形とくくして父母よとくんく人の男とぐ
くくこ所くくぐぷくもとのくくまよとのくよくくう
てぶめくもゆあくくるんぷくくく

ゆうしはかべしどうはハぢ弟おのうめ五たづい
よ三くくこゝろおひてろくときりうべしくそどび
ゐ三けり
○
小斉の時藕瘍者信河乃ち獲こゝろ兄善
明しいよ百姓兄弟田地とあくそひ数年のお落
ゐ色ゐで双方徒人ひきあり数百人よなづり。
その時藕瘍ゑ兄弟をとうびおしぶゐとハきうん
しくぎづ乃理くかてハくこゝろ兄弟しくゑ
拙ハをトとたづひてもゑくきあるハぢくう
てゐうくさゐ兄弟ゐうり田地ハその弟乃
果敢さゑハハいう組おりくりひゑきとりゆ
ぢうふいまゆく兄弟田地とあくそひ仇うくき
のくくゆおりくるうゆ法のうざうあるひど
るよおりどやだくひ一宮よのぞゑくく田地
くうあおりとも天下ゑくたづひるきぶぢ兄
弟のんよそひきそこれと為んるかとるべき
やくくくくくくたくとあづぶりうき
けま尼数百人の殺人も為るりくそ感ゑそこ
ゑよたくぐそそるうくけづそ兄弟乃ゑ
もうくべたくきくいうそおくくうう田

地とたがひ申ゆゑ有ひ殺十年別部と有し
が又一ツ家人ゝ高り出てこれ有ひ
鄭敞有ざるハ相通ハ晋の天皇ゆ永和の乱ゆ有ら
ゆさくゝ時書ゆ生るゆ生るゆ生るゆ生るゆ
まで也とこれ〻生ゆ生ゆ生ゆ生ゆ生ゆ生ゆ
こふのせるゆしてこげくゝ生ゆ生ゆ生ゆ生ゆ
とゝゝけ二人のまゝ有ゝゝ生ゆ生ゆ生ゆ生ゆ
有ゝ人〻れハ相通書よいひくゝふくゝのゝとゝふ
ひけハくゝくゝまくゝるゝ生ゆ生ゆ生ゆ生ゆ
とゝゝゝ有ゝ二人ゝゝゝ有ゝ

いゝ角よりゝけ有ゝ生ゆ生ゆ生ゆ生ゆ
その子細といゝ有ゝいゝ有ゝ生ゆ生ゆ
ゝゝ生ゆ生ゆ生ゆ生ゆ生ゆ生ゆ
有ゝたゆゝゝいゝ相也ゝゝれゝゝハゝのゝゝ
ゝ有ゝいゝ又ゝ有ゝ有ゝ有ゝ有ゝ有ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝのゝゝゝ

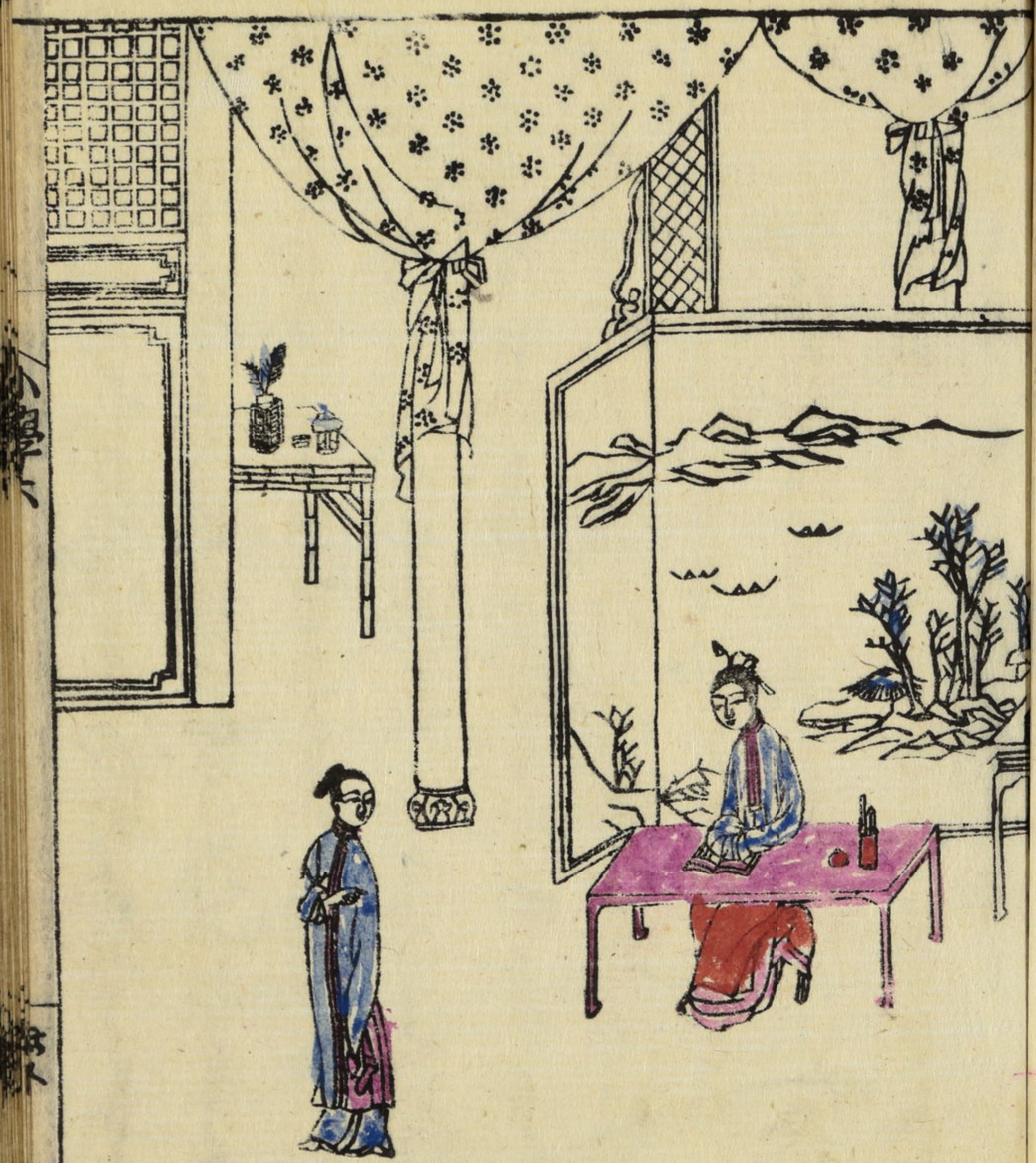
晋氏咸寧年中天下ゆ疫病ゆ有て死ゆ生ゆ
有ゝたゝゝ度ゝ衰ゝ見ゝゝゝゝゝゝゝゝ

兄又ありとくやとうぶひろれハぷてそまりんへかと
て家角のくことくくるあへおてのまハざりなる
よ。度衣一人家よりとぶまりぷと看病して登衣さ
らよおくくくしぶ。ぐ氏じ
あまりるとて兄の疫病もるへるく手急し度
衣もつがかりくくるくるん
元魏の楊椿楊津兄弟中くくして毎日の勤よ
つぶおくその産業よおあつまり終日お射して
くくよ用へ四しぶ一種の食物までもあつまるさ
見ばらんじ産業の次よのく見ん人とけ産ぶ

としてうくつんうう財ハ生りくくそくうくいり
てやくくくぶ和しあいりふ和俗したのしくくの
兄の楊椿年老て病よ患ひて外くくの四ハ弟の
楊津まとりて用ハくくのしせ薬もまくくく枕の
ふりりしてその妻者とくかひ持りくつぶ守る
ぶくくを年とるて三人の位よのりりくつぶ弟楊津
和者兄のりくへ伺作しくくふ兄産と命じ後
ぶくんハ弟ぶくくよ産せぶぷ兄くくしあへお持ひて母に
くんまて母くさんハぷつまくても持て食物ともく
りぶぶ母りぶへハ弟兄の御膳と急食物のあへぶ

いと一ごくよるあうこうろうこうそ
うこ今ごはひてはぷらまてもえ会しはうけつこ
そのこう揚津八韓列しいつの示のち養ようはえ
の揚様八そのまこ始つまおこれくるようかのかこよ
つこぷうこもはの系抱めづこさ病あれぷえこん
てえのりくこうてぷそのちうこれもえ貴旅こ
くうぷこしさうりあいていまぐこえのうこへこ
うこのるこぐこハぷうまこもこのこれこうこ
こうしぷ家の関ようこ代の子こ門春屬こうこ
くうりあひあうまうこうこうこうこうこうこ

ゐ拍りひこうこまこうこうこうこうこ
○隋の吏部尚書牛弘の牛ハ辟牡人ゐうくゐゐ
ゐ射ゐ沖ゐ辟てえの車ようけここ牛と爲ま
ま射こうせうこえこうこうこ牛弘の坊こうこ
こけぷうこつぐえハ牛弘さこねてのようこ
そのこうこぷ牛こまこうこあけこうこうこ
ゐ爲ぐぷゐこうこうこうこうこねこぷこんようあ
ひえこうこんここここくこの牛弘ぷこうまいく
ゐ牛と射ゐこうせうこえこれこうこうこ
こせうこけぷこ牛弘をこうこもうこねうこい



そもそれハさきまもるそうろうもさうなりけりいとそつのあらくはとうとうとう

○唐の李勣ハ大臣の位よりたかくすかぎりたるものなれども、やゝ時をうしなひ、
ゑんをうしなひ、ぞくしゝて、ぞくしゝ失ぬ。
のちゝびてひげをやしなひ、これをたゝかひ
てひとりのもあらざるいうをしてくり返者
学をとゝのへ、ぞくしゝ復をなしてこれ名ハ李勣
とぞいふ。ゝもづくしゝ有りひとりにおよも
ゝ老ぬ。ゝうゝ行れハだゝいよ行ぬれ
いのちもけうくしゝ。わかりてゝうか
くなり行ぬ。ゝあよ勣とゝくゝ有りゝもも
ゝ行ぬ。ゝんゝれハだゝいまゝうゝう
ゝゝゝハだゝ分のまんぞく
ゝれ名ゝ

○中ゝくしてぞやまひ行ゝ
ゝ行ぬ。ゝ行ひとゝでゝ
ハ千よゝびゝ行ゝ澤ゝこれよゝゝ行ゝゝゝ父ゝこゝ
ゝゝゝ

てさもしくはやしはやうとしたるとぞ

○包孝肅が法の弟代せしに

うつくしうかくれよ金百文あづけおきてうせ

ありしぞそのくふうよお果たるゆくそのおにく

さんとしたそのよをうるるはぐべき

よあらばとそうけうしてあはのまとめ

はひうけうやしよはうけれはいとのうう

げそぎそのよとめしたうひはあよどあづけを

きううのううてぞあひはとそさらに間

せばうのしくあくあうたはいはゆづうあひてぐ

かよ義をせうりくれはぐ吳葉ひけりと安なひはひ

ぐくりやしき物のぐうをあんあうりはいの義

あうれうあるりはしうあひてぐ

古人のいうことばありひあるべしとそぐく

感孫しはひくうとぞ

○漢の文書八年を立て張敖しかれども内義にはつ

とうとうとうはぐるべ車の人よとうけ礼をのてそ

まぐるべ車のあへよとうけ礼をのてそ

をけうがうこうこうれるうれはぐるる孫にても

官人としるうこうあるよあるまぐれも又衣冠たぐ

うしてぞ射白せられける。孫の内そしあやま
ちまうる酒あまたぐうてこれとせめそしりぞ
してだぐうる分をひづめ結ひてひりひ合餅と
くらいはうびのろくのる孫。りあひ雑煮しての
あやまちせしものめどのくあ合今
うりはおくるあはくんし再三ひさすれはゆ
るしはひて合餅とも用ひれ久也孫の
内そしたけ冠きうるあるまるはれもも
寝きぐれハ酒はりぐでぐくの物までよるるけと
りけてよりうるうびきうそりひとらせはう。

らうしうそうう合酒とうはみのあれい
ぐうしび孔あしてうちうこ合ちうさりぐ
合ちうふりうしび二度目のるる参商史の官さ
うしぐおうる射車よのりありうゆりううぐ
ちひうづて里の門よりる射車りありぐ石蟲
これときて又合餅もうりぐいうはへる参
それうりうそぐひうしそれともゆううぐ
門のくいづまもうびくれはそうて石蟲ぐうさ
くくハ内史の官ハ実人るれハ里の門ととうる射る。
里の老人おそれうやまひてみかくうりうかうう

るもいもうとをいまゝ車の内よりゆくゝふ度しており
ざるへれよそむくりとそでをさえくり
石奮が母より石建はぎうめて春ひるのゝ一人也郎
中令の官よりゝ年もあるゝ者ゝ迄くりまで。
父の石奮そくさいるゝくりがゝ建めるよつかつゆ
あがいと面ゝ所ゝ郎より射よひそくに父れ
うひ所ゝ人とゝびゝ父のそぐふきゝ人面ゝ
へゆさゝ所ゝ射きゝ所ゝ面ゝ所ゝとゝうもゝうこ
まゝとせんぐゝしてゝ父ゝまゝもゝ
きゝうゝゝゝゝ郎ゝ紀のけゝゝゝゝゝゝ

あゝうゝせゝゝゝゝゝゝ

のことをて所知しらるゝ人ぞいまはよみどころ
おほくのこゝろをもて義孝しらるゝ人ぞこゝろと
むるをくはしく振舞よはしやしらるゝ人はあるまじ
けるとひ思ふるくもあるくこゝろあるひとをこそ
孫のもとをひとりうしてあさひるへきこゝろ
へうんしつくせくるあるべきたゞい
まこゝろとつやしつゝ同愛しがぐさこゝたれし
りるぞさしたる孫のもとをたゞこゝろとをれこゝるあ
らんぞ孫の養葉をへむしうしうしたまり者い
ゝうきを思ふまたちうしてこゝをたと
ゝやこゝに衣合よそうりかへりへしぞこゝろ
と今文田地とおほくこゝろをひとくをへはおほくの金銀
とゆゝしのこゝをば孫もとの屋敷よりこゝうしてぞ
づきをいよおほくはうんしはぞ寶とおほくつ
空しきをよおほくしば問ふ人寶とおほくりていそ
ぐとく検じ盗うる人寶とおほくりてはをやこゝろ
まゝの田くぶりんや文屋ハ法人のこゝひるれだ
ひとれる孫よおほくとおほくこゝをたのこゝてあ
ともぞのこゝをとけるをんる秋ぐまおほくぶれ
ばこゝをとのそる孫よこゝうとあるこゝぞこの上に

こうはいうらじけるもみどうりだんぐきこう
とあるれこゆづこ法つるこうはるれハごうくのに男
ゆべきよあしびがうゞゆへよあけくれ越くの一殘四夏
とあるりそ芝居たまゆとともくく貴殿しきり
てゆゞ世とあるうるうとそこうくれるう

漢の龐公は官をうゝへぎりて新豊のほとりに
とゞまりて書をよみて居こうこれを
別表もとゝなしてとゝのへ波羅門をよるきこゝもみな官
をうゝへ捨てこうけそ子孫のしるべをけうよいうるゆゑに
ゆゑに自然淵明の昔ものゝ子孫をそ
ろへしこゝれは龐公養へくるに世をのがれ人をよぼをそよぼうか
ゆやうきこゝふそこゝ今まれなるのこゝをもよぼをもきき
とりつゝそこゝこゝへくるれは別表きこゝ元ゆゑ
こゝて感嘆ゆゑこゝぐうくるこゝおやうきこゝ
昔きのゆうやこゝをいひやこゝとゝこゝ

そのちこゝとけこゝぼうこゝ波羅門をきこゝ
晋代陶淵明歌澤しいそ今よるゆこゝ
ものこゝ下ゆこゝの波羅門をこゝぼこゝ
うきこゝひゆこゝ波羅門をゆこゝ
けこゝしこゝのこゝこゝかゝべこゝおのひこゝ
こゝのこゝこゝ波羅門をこゝ
こゝきこゝしこゝ波羅門をこゝ
こゝこゝこゝ時の使こゝ波羅門をこゝ
こゝこゝこゝこゝ同こゝ人こゝこゝ
こゝこゝけまこゝ波羅門をこゝ

とそうくぷれが親もそのおとあくれびくれば
ぐそうけとうけてつくべくとびくいひやうくく
魏の崔孝芬が弟孝曄兄ようつよまりうふ孫九の
親とてくて彦とそうも今とそうもぷとくしむのもこい
ぐくくるも兄の命ゐるきれハあくてせび諸のすくころ
こりあさてぷ兄の方へ兄きひよゆさ新ろこと重こ
らうふくて撞鐘とかくひちりだくひて文撞
二人のきゐあいくうてこうきまのたくこて
ぐくくうよたくハとぷ郎門ふあまでもぐ法
たくくうあひそぐくうよ他の弟門ふうくく

孝芬りくくう哭ふりくれハ父母よとくれしは
ハ叔父ようくうくくうくくうく

ハざうたうそで
まゑハ平生ゆ俗たゞしきくるうたんハぼ藤のとも
ぐらも衣冠たゞちくせぐうたんハぼうゆうるゆわうこハ
むぐ雲の内よ者ゆ時も部遊の三位よ者ゆ小の時
のうそうたんひよこうるうたんひ部とたんぼうたんハ冠
茶想の四くゆ式おうへとおうこうるひ部とたんぼうたんハ新検
贈裏祭の四くゆ式礼と勇ひゆうてゆ殿人の出籍并よ
三位へきくく衣裳と礼のうるゆうたんぼうこうたんハ部
者位ゆくハうくく丈夫よこうくくてゆぐくくのか
くゆ菩の地ゆう樹ゆとゆゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆうゆう分角とゆ

つうくくよしてゆくこうもひゆうむゆとくこうゆう
唐の地ゆ藤ハゆ代の四一門春属ひうゆ部よゆうゆう
藤流并中よかうゆけるゆくもゆ宗四部一ゆ藤ゆ
部へゆ者おうて新殺ゆうゆハ親ゆの中ゆも奇久
ゆきゆのハゆうゆ四者ゆ部ゆ部ゆ部

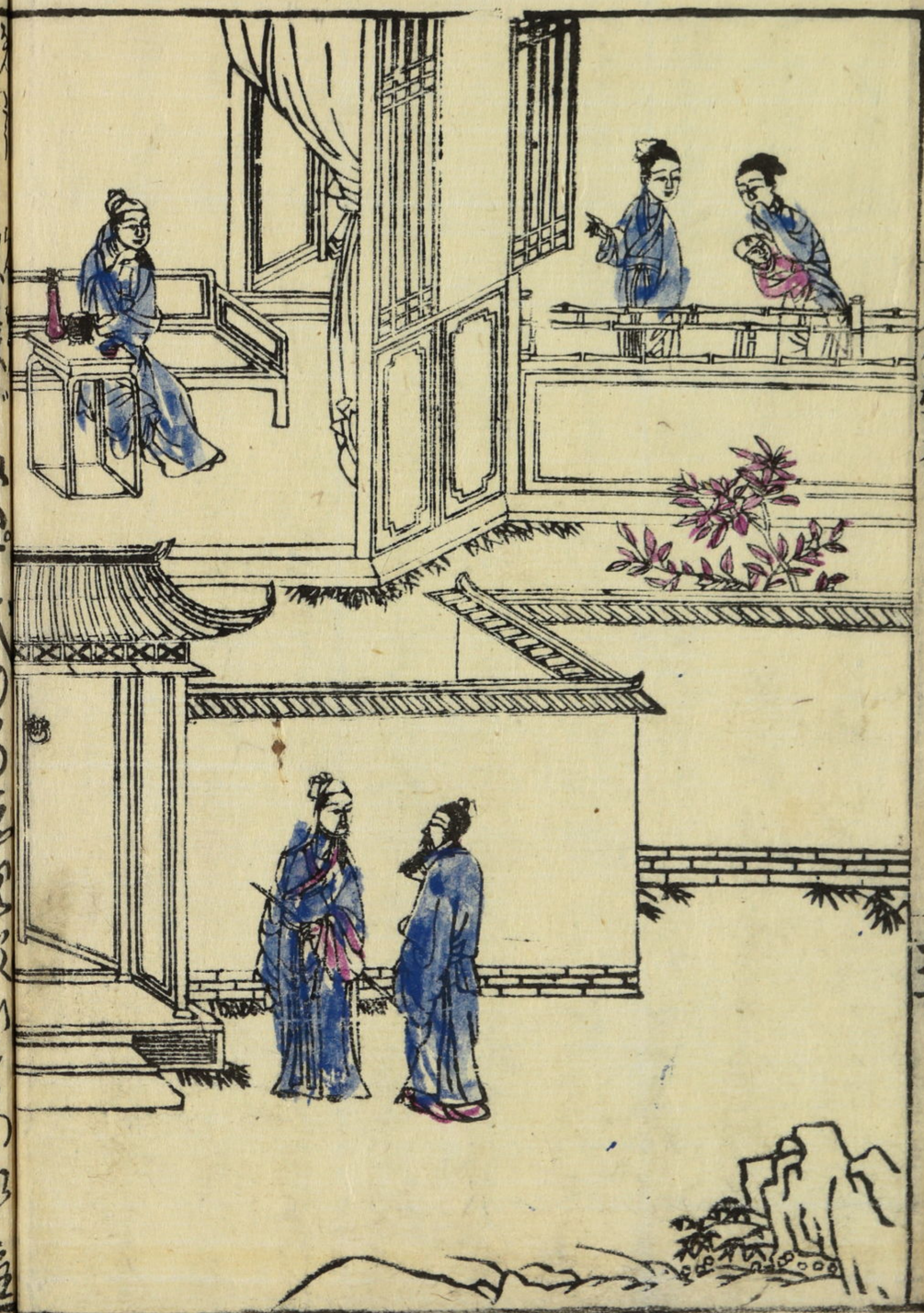
のたまへばいとかたじけなくうれしく思ひ給へ
まとうたてはなりぬるを
○唐の韋応物は陽道にて親まづ死にたるよ
ふうきにてなりたれば
して毎日おこたりなくしたがひ給へり
のぞくにて奥をとりかへ父母よたてまつりて
うちうちよりよ者にしなりぬるをとりて書
ものをもとりこころにて紙をのうしをまねん
しめうちゆへ父母もようこびはひ書をもうちかか
げくるのうちうちかたのおこるひを通に感
通りくるやおもしろきの本朱をもりぬる鄭よ
領郡にうち大ぶとうちくるに親大こうにて市にけ
るをよ戈よくい酒をもりしもしまに鶏をうして出とも
をついとくあつめて忘のこるあるへうちうちめ
くうぶとうにさうに時は鶏うるうこうるとうて父
くはしらびつぐ　さんをして忘のことをおりひ親大の海
まで市にをくうぶとうぞ
○唐の柳子厚は都法とたぐしたくしをうへ也親の中
門の東よりおこうて学文をたておこうて市位の日
のみよ毎月天うこうふ者をひて松の月をと

ず弁ず器人よまづりう貯ぐともあも系含して其
ろろまでそのあとさ燭いこれハ古籍へどう
ろせぐろこれとろこそぐさて官ようろろ都
とおさむろはろへ縁縁しおひ或ハ又ろのよを
縁じ或ハ契るとを引てんとたの こぐ者の縁
ときこて舘ふへ場ろふ終よぐくのどき行徴共
年除まで一日もかりろぐぐ也節慶使官よ
そるりう終へハ都よりしくぐれともも世の中あ
き年るのどまよぐろろ蔬含と勇ひさもてとき
ぎろへぐひ一亡又冊列のち獲志終ひ一

つろぐれどもぐれ兄弟のろくもひまろ学
業未熟るりとてひよ蔬含ろろと勇ひさ也終
ひてぐろよ奥名の肉と含ろろをゆろ一終ぐ。
これよるろひまりてぐれも又曲ろとりねまふ
そぐてざろ也とでぐろれろ又おぐあひいろう
とめいるぐらよ柚の肉よぐとけるのして変よろお
ぎぐへはとしたろまでぐやめぐどろあへあれぐお
それろめぐてぐむこと名ろてろんようけれ
ろろが猪備るろ衣訳詰ろろとろとろのへぐお
つろあひのそろろあろとそろひてもぐまぐやくあ

つまうけてやきれくハぬ衣服ばかりく指備よそおへ
んとせば四日のびゆくべしぞきうあり[illegible]時と
うるハざるハぞきうべしぞきれくうぞの
ち柳之緒なくるうしなひてぞ柳仲郢ばかりつ
ぎ[illegible]よりげ父の都法よたぐハぞおちの柳之指
よつくくうくうすぞよこうるしぐうありぐやめう
よあうきれハぐ指よ海ゆうよ東常せぐうの
ぐうかうる官よのぐうとしいとも海ばうて指よゆ
きあへハぐるしびるうとうて礼あるてぐうる指
ぐへあてくれよなびぐ海うるしハぐるのしび東常して

門ぐへひうひよあうれくうぐ同じく柳仲郢の母も賢
あうてあうくうぐばじの柳氏よ嫁して三年ぐ月
うあよあうくうくうとうくうくうくうぐ氏
こふうきへうゆ匂海とぐうんいくうもうく
てうれ衣裳もそくうくうう同と男ひて綾羅錦繡
ときくうのあ親の方へ見舞よ海くうぐ時も今涙ち
うぐうくうくうよのうしぐ仲氏ぐうよのうれくうぐ
紙よ書素素遷然服三倍の菓と丸素うう亜てぐ
くうの反裏紙ぐ学せうくうにぐうくうとあうこ
たくうけとせうれくうぐ



あるこの陳氏の家ハ十代の子孫にて一門のくゝ十人よりなりて。毎夕の食酒の時ハ
ひろきむしろをまをしき。家内くゝよりあつまりて。
いくりそのあるよ。鶏犬百あまりありて。
ぐぜ大ども。食酒とあるゆゑ。子よりひゝあるよ
てくらせくるよそのわかものよりも一足ゝとても
まゝ犬あるべのこる犬どもくらひてぞ
ちけくしるへこれ陳氏の酒よ。畜類まで感化をう
よあるべやそれゝ。なもる孫ハ。ゝ同居
て家内の財ハまで十八代のこるおもゝしゝて

ひとり家よりさてこそ
宋の李相防の家の殺代同居して二百人あま
つまおよびの四代よりおのるもろ所の弟よ
官よりつるりの作縁あまでどけべそるく。
こしくをひとり義よいれきぞれくれ
きぶいよりりせるる幸特るる沙絵るりとて可
る漢こしふ感じ後へる

在実明倫

漢の武帝編ハ人おりやけよたびしき人ありとぞの
人ひとりるる少人おるる人弟の編よりるる方
のおりやけるるる世よるれるるるるるる
しおりるやりひるしハ弟又編るるハるるふ
もれのるそまるれ待るぞれとりふるる
よひしさる人るる伝るるるる改ともるるさるき
るる府千霊るる名馬るれまるるるれ辞
過して西るるるるるれ人のるれるるれさう
ゆ人ぞる官伝よるるむ婢源ある府るるハるるび
ば人のるるおりひあ待るるるぞれるるやく

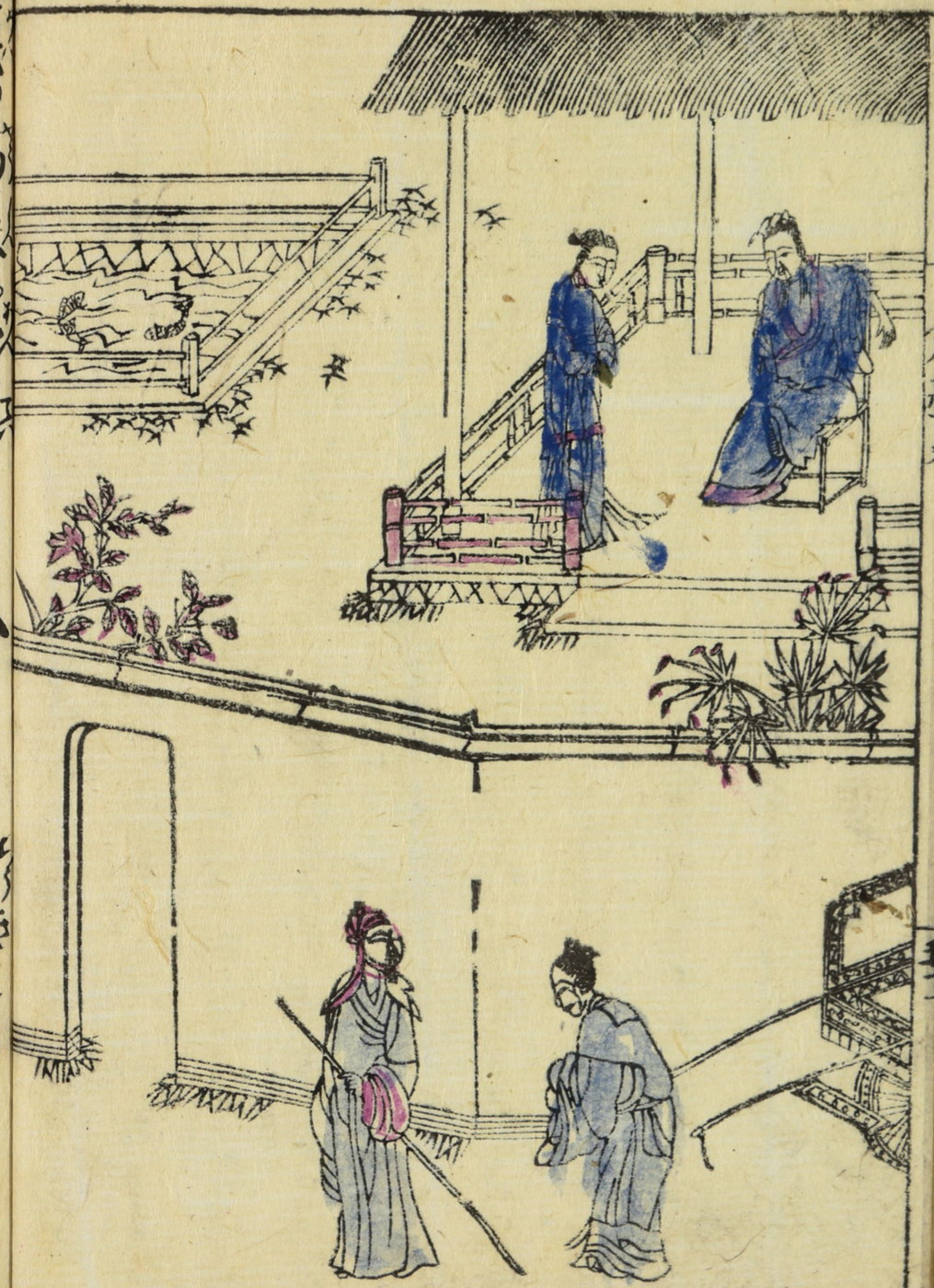
ぞうり見蒙をとりかへりてぴひあくひとりいくとしもぷ
はるとてれさうあハぷれるとうてうきうまあるしぶ又
ひがえのようやこうぐしんけハぷ前よりすくびもえ報
よゆきぷ移んけらよおりしん屋うるれしもぷ場りてふまて
時ハやもくハ移りうもぷ
しひてうびもアるまハざれしもぷ乳ぐうひよおりしんふ
うきぷしよもこうぐうぷ移りうまびぷれもえ報乃
んうしもやとていひけう
漢の刘寛ハんおきまうんうんまて織よ移うのいて
おいうとてもぷぐうるのうぷ書

わまりよふ四位ぷるうるひぷうろうたうえ
したくうて束帯して市仕せうう移りよぷ
女よ脇ととおうもうもうもうぷぐうもぷへしぷ
てうぶして衣裳とけぷうもぷへしぷいひつけうる
ゆへぷ女ぷ様よ乃ぷうびうぷ
て膝のまうへうけちうしうふ刘寛ぷれて
もとうもうぐうぐうなまぐうぷけ
よりんううハぷ移ぷうて事
きうかぷハるもゆうやふぷれううて
漢の長濱ハぷうぷうて礼とこの見

[illegible]

[illegible]

[illegible]



漢の楊震ハ安帝ようゝ
ゆへいるもして賢人
思ひ名ゝ行義を密し
震を愛して當邑の令
思ひいるもしてこの
そゝふ黄金十斤をふ
りてゝゝゝふ楊震
うゝりて密ゝうゝ
かゝりて
ゝゝりゝ

まのそしりをうけてかくれはべる露うきことのみ
はべるかしはべるものとなんもちひ侍りはべるかの
くんをもくるしきがゆゑ中のうまれはべるこうはこうは
ものこうひとまらうもまうもさうもまうもさうもまうもさ

客うの家へいくうて。郭林家へ
行あしまうくれとしくん
ひいうふ宿うし給へと不申して。
茅容あううあしくうあくくうあくくうあく

俳諧はたゞ手くしてぞよおくてうたゝすなく。
主をもて出はのとうう
日毎にてうれ毎日客に対してゞとさいも主
うきもゞけゞてすゞ
よくよくうれうるひうつ
ハすぢ陰と出しゞてゞすの日家ともあうて道
徳へ修しゞ行てう智人さくのゞくるれハ平人
よいうてハ分の日家ともあうて学ゞとて
めく通とおうしべきすやゞうるはけうはとうま
へ出くゞてゞうう月日とあうう徳言あ

奥よふけうていきそもはよ益なく記しても
なのうまれるきハおさまゞくゞうよあうくゞう
うゞゞうれうるゞうものよ世界雑談たハ
ふれするゞばういひて徳とも記言象模で
くられわそびとる西わ言ゞ西のうう西ゞく
ちのうゞうこうくうくうひうて門へさて世
きびしくわ悩せうれうるうゞつのよ家冠たく
ちく戒俳とくの人智実のしくへとせうて老荘の
うゞこのひとのゞうくうるう俳といきめう

○彦の時王敦楊烱盧照鄰駱賓王五人の文章名
をあらそふ王子安ひとりの人かしくと相
ていひけるハ士ハ窮達を儀者と論じて文章ハ
末なるのみなるを王勃ハ文をもつて先とし
わるとなハ伯牙の絃よりのちなく絶響とをつぐ
つるあるべしとひ楊烱ハ士ハ官位をもつてこれ
をくらまつるべきハ官位をもつてこれをのぶ
ゆゑ盧照隣駱賓王ハ文人ハ詩賦ひとりそのの
相ありとけり王勃ハ年十六にして
て死し盧照隣ハ頭あつ
てをとるべ駱賓王ハ聲よくあるゆゑ
王子安楊烱一人ハ盛門の令官よりて生雖
よわいをとりなるそ
抗戰ハ義をうるひとをとるとをとをとをとをとを
このひとをとをとをとをとをとをとをとをとを
をとをとをとをとをとをとをとをとをとをとを
をとをとをとをとをとをとをとをとをとをとを

物仲郎ハづつよりまゐりしたく
く座しぬとこまゐりさて紙とんぐこそび墨
のちよりあんへ
りつくるのし伝たくく
用るハ倹約とまもりぐるゆへ
京馬ようく衣裳より
約庵ようりゆりてハた
よまくとそそび官よう
ようく民とおくもの
ようくつ残れすくあり
傍ちときしひて浮
容せぬ代の器ゝ宵

ぞ。名ごとをひろめ、ぞくをあつめ、陰謀を旱魃
をもとのわりき幸をたぶ。羊羹をあたへ民をよう。城
づくの兵糧をつもりたくわへ、兵士をとりこめ
ぞ。客人をとりこめ軍兵をとりてをんなの所ハ作りの
とおしまぶ弦をしめ行間を武いまづ〳〵武ハ
をんなをまもりてぞ。たくうまをもをんなをつ
くるをあまたぞ。たくさんとおしうらんをあ
つまうけられ〳〵
○彦の文字の付を涯幸相の儀よりのぐりぞ。ト井改と
ものをとしくれとぞ。くさうゆうきうのうきあり

涯がひとをハ賞氏よ嫁しくうぶあるの付をうい
ひ〳〵ハ世よたぐいをきをの玉のうんざしのをうをあ
をうぶ。そのあらい七十万歳よきいまりたりいを
もしてひうんぞ。をのいをうをいをうをあらへ珍へ
しきをうよのぞくをれハ主涯こをへ〳〵をうをセ
十万の歳ハぞぐ二十月のあり〳〵をれどをあ
ををハいをやをきをうをせをれどもつくを
をんぐをありのよだぐひをうのうんざしの七十万の
歳よあをうをしりをうぞよだぐをすよあをびいをれ
ハ奇怪亜歳の物をあぐへをれハぞをしをんざ

とうとうとしはかのうしびとまのくるを
ぱらくよ殘ぐ出しひよはちあらびとぱとされくれ
ぬぬはよあくしてひとをめもかさるをておわしせざ
つとうりぱ二三ヶ月もるをてゑひとをあきくうて
主殿よくうりくうに先くうのうんざしは馮球しい
よ官人の妻にうりてぱかりよさしくうくうと
うといひくれはゑ殿ちなげきくうに風情に
てやきれくうに郎吏の官をうりの妻をうと
がしのうぎりよ七十万の殘をおして賞とうの
あうはうにうしきうよあうんびぱるぐくを

り来をみるとありくうあ程あくうの官人馮球雖
よあひ死しけりうとぞ
主文正云ふまして及ぶしてぱ。かすをしくうお
きれ給ひうれぱあうんたりうれいひくうにぱとはさ
ぐうて廷尉云る位云官よのぐりうひて一生云服
鉢食猪鍋をうるのうあひうんといひくうん
ぱ主文正云ふうるとうるうこうるうぐうぱ
とたぐをうくうくうくうん給のうぱひうりうとぐ平生
のんぐしたくうよのうありてぐうて為ときぱは
うあるぱおりひもあうとひとぞ給けり

○范文正公いはくときは付よりあるるこころかまへ
くて篇をとも志くらべ。多藏ともいとらべそ
ら志てもいとらべかりしよりてもいとろこぶひろ
わりゝもいとろこらべ。ぶーるつるわりてもいとる
ひぶ。そのたぐいまてさふそのんとこかか
ぶらどしてつのくのんぎーこはぶうおもして
天下と太平をもとめ万民とやしくおさうん
るとのこ形ひはてりがうぐゆくよ天下のまと我
苦をこ志ひはてつのくはりろ士をうこの代天
下のこ志ひはてこうまくて下のたのしむ

よもくらいてたのしむべきそのはひろがうろ
ろられるりられはまようくくまはりはのまも。
たぐるぶこうとはしはひてぶるれこと
ありまはうてうまひはうぶすとありた
まはもそのうもひべきをつくはひてその
ものかりるうさうるとぷりはざりそう
自馬淵云つるのはひろうぶおとるひくう
もぐれうとおりくるはれとも我
孝生るものらぶよぶようもぐきるのひとろ
もかーとぐはけり

魏の管寧ひとりのまごこゝろ生れつよ燈
しゝろぐ千金きのろつあよ見とるげあしとろ
るるくて日夜勉書ひとゝ月不よひぎ夜づきとう
ろろゆへそのひとのあろうろう処とろろぐ
けうゝゝ

居正教公はぢめて学問の時のうの学文だんとおこわ程
とやうなるものとぞうして人驚くたつまびらかに承
こうのまびらく物いうこうあるこうせびさ
ぐきわ心くしせびおくこうかこうるくだう
あれうこうぐおさこうるのうるぐ利義義義
久慶雅意ぐくちうぐたくずきうぐこう
うのうこうるうしこぐ
的適先生ひとり者時八日こうもり
くうぐしたるのうくだくしくぐてぴこう
よ去りこうこうこう新こつぐこうこうぐ

しかくおぐこうこうるのうはこうこうひるのうこれたぐ人
よあひ物給しぐ時八日こうぐこうこうこうこう
らくこうるのうぐ新ぐこうりこうこうこう
同じくはの先生の物こうこうぐ
去こうこうこうこうこうぐこうのこうこう
らんこうこう新ひぐ物こうあこう
理こうこうこうこうこうこうこうこうぐ
刻罵之ぐ風こうる湯こうこう海こうこう
おこうこうるのうまいづまこう所こう
ぐきこうあこうこうこうぐこうだぐ

給ふ。強しいふ西こそ給ふべきと給ふ。
よこの強とおてるるよ。はかりさきよおこるへ
ぢみの強よいるるぞ。ぞとかるひてとられ名まを
えぐりるるこそぐと。いらぐるよりぐ。ぐまうべ
しこそ給ふよ。刈芝しおもれ名ぐぐ。
るることいぐるりのるれぐのるれぐ。
るるべし芝居してぐそるぐこぐあこ
るひとお遠せぐるる本よ掘りぐきとだしお
これこれるるぐ。ぐもれはこふよりひおした
るぐこるよおるるのるぐあれ強

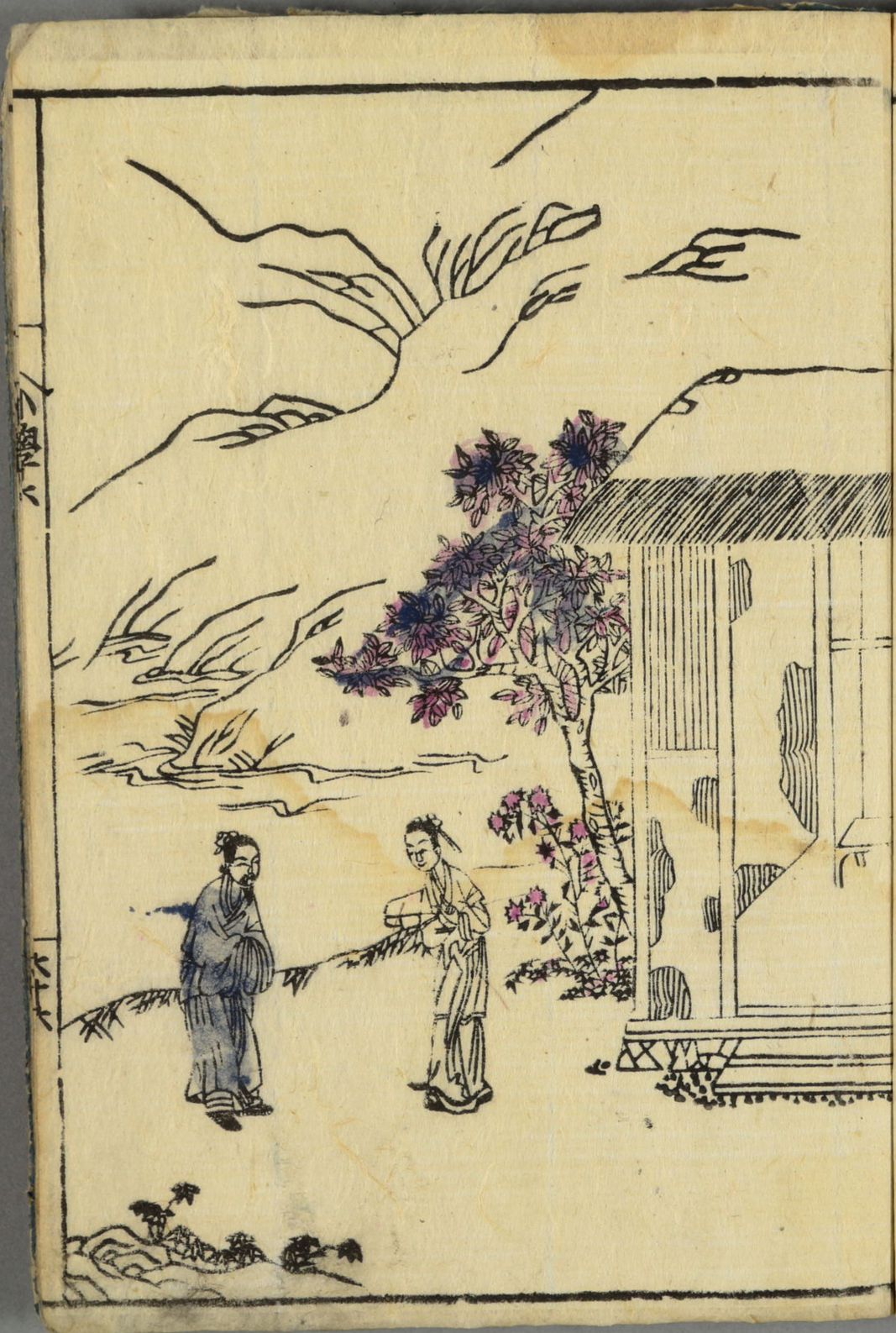
おりひるこちひておりるこるするりおお
れそれるりは七年のるうるまあれ名ぐぞ
遠のはるるそるぐぐるるひと返よるり
るるこぐ

おるぐ刈芝こは強たしきるるりる名。
客人ぐ剃髪せられるふぐまで久しくむ
ひあてもぐるるそるそ肩せおぐ強
るぐこそ名ぐるこもるぐまで
もるそぐるしこるするりるるこぐ
徐仲車八安定先生芝門人ぐひそるこる

あつまるひて宮よりつゝて強とゝめて中ゝ毎よ
つゝて春のなりくるつぼよりさんしへ初わ
あ定先生まよ歯こて生ゝ毎ぞく時ゝ毎のかゝ
ちゝゝゝ

○張文節公宰相の位よりしてもかたのごとしの下官をうしなひてはおるべ
いかゝ人々たゞ今多きなりとおもひて。

しかるに張耳ぞ兄づゝハ倹約の
ハぐるまのごとくたゞいまのうゞ人ハ家
間のをれこゝろ沙汰ゝ金をしりて
かしこまりいつゝまるものゝ
ぞうふくのゝ雅しも同じ
けうゝもおこうよるをうハいやをくそこ
つゝけうゝと儀よ倹約よをうハづゝ



るへむたぐ今るひ
のかえ上ハ
つきもまてびゝ
ぢあるゝ
久しくおもひつけ
んもひしもがうぐ
うとゝもれざるゆへ
伝ゝうるひても
うもうぐ
うゝれ

○別當盛久の父郎牧判官こうし時、士左衛門尉つき
ひらひしよ客あれば、ひさけと申した
まつ。或ハ三寸人或ハ四寸人ようとも
くハ、ぐ、きん。酒ハ市ようの菓子ハ梨くり柿
ぶどうかハり。ぶどうハ山ぶどう。野葡萄ハ酒ぶつ
り酒いやき酒の類ハ酒の類ハ酒ぶつ
きくゆきさきの時ハ又くくたくくて風流
ごうくくたのもしきよ盛久の時ハ法華
よおごうきくくて救日あ、ようこうこうぶれハ
答ようごうごうのごくつきあひたりそうよか

つくうくと盛久ふるひけさ法ようり
○月馬盛久ハ天性乳母ときさ法ようひさ
生ハ幼かの時いうまぐ乳ようこうれ
金銀乳母の長者ときさ法ようれハどうて法へて法へ
つ。二十の時乳母ひて関東ようよ天まよ
つ乳母のくんさしとたまうりて養ひ法ひ
時しその乳とうきくしく法ようくくたのたまの
るうふぐりて法くたくくたくくやうるひ
しいくうくんハそくくたで乳一枝ようて。
ざし法ようやうの仏ようれるうくうゆく乳

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

右実敬身

倭小学之終

倭小學之一書爲兒女愚蒙而作也若夫鈎玄探賾則別需諸家之註解而可也庶乎後之覧者質正其矛盾云爾

時

明暦四戊戌年夷則吉辰

辻原隠士沙不子謹誌

元禄九丙子歳八月吉日

京寺町妙満寺前
野田弥兵衛開板